



石巻地域の復興とともに ～地域お祭りへの協力参加～

震災が起こった去年は、地域の伝統ある祭りの多くが中止になりました。復興のために優先させるべき課題が山積みだったのと、お祭りを行なうために気持ちに余裕がない方が多かったためです。しかし今年は昨年行われなかった祭りを行うことで、復興に向けて地域が一体となって頑張ろうという前向きな気持ちが徐々に芽生えてきました。しかし、そうはいつでも、祭りの主体となる行政や地域住民が被災者である以上、震災前ほど余裕が無いのが実情です。そこで今年度のお祭は、震災後に石巻地方に集まったボランティアと一緒に盛り上げる形となり、YMCA もいくつかの祭りで子ども関係ブース運営を担いました。

10月14日には石巻の隣の東松島市でお祭りが行われました。YMCA は市立図書館の祭り会場でブースを構え、子どもクラフト教室を行い、100名以上の子どもが集まりました。東京 YMCA 社会体育保育専門学校学生、ボランティアリーダー、学生 YMCA の青年たち7名を派遣しました。



東松島市の図書館まつりにて、クラフトワークショップ

また、10月21日には第23回石巻大漁まつりが行われ、西東京センターのボランティアリーダー4名を派遣しました。この祭りは震災前は海沿いの魚市場で行われていましたが、この市場が大きく被災したため、場所を移して規模を縮小し2年ぶりの開催となりました。子どもブースは震災後に石巻に集ったボランティアによる運営となり、子どもプログラムに定評のあるYMCA はイニシアチブを取って子ども縁日ブースを運営しました。当日は300名の子どもがブースを訪れ、用意していた景品が全てなくなる程の盛況ぶりでした。地元の方々がいかに震災後祭りを心待ちにしていたかが伺えます。

祭りを行えるようになっただけでも、被災地復興に向けて一歩前進したと言えるでしょう。しかし、祭りの規模はどこも震災前より縮小していること、震災後に集ったボランティアの協力が少ないウエイトを占めている事は、震災前の状態まではまだ遠いことを伺わせます。最終的には外部のボランティア団体はフェードアウトし、被災地の方々が自立していくことが望ましいと言われます。しかし、そうは言っても震災の傷跡はあまりに大きく、まだまだボランティアによる地域に寄り添ったサポートの必要性を感じる、震災2年目の秋祭りでした。



上：石巻大漁まつりでの縁日コーナー

下：大漁まつりでの YMCA リーダーのボランティアの様子が地元の新聞に掲載されました（中央）



東日本大震災救援復興募金

- ・ゆうちょ銀行(郵便振替)
- 振替口座:00120-7-714728
- 名義:公益財団法人 東京 YMCA
- ・銀行振り込み
- みずほ銀行 神田支店 普通 1677931
- 三井住友銀行神田支店 普通 7656469
- 名義:公益財団法人 東京 YMCA
- ※「東日本震災」とお書き添えください。